

下町文化

第 189 号

平成 9 年 12 月 15 日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課



納め天神祭

伝統行事が伝える

年末・年始の風景

いよいよ今年も余すところ半月となりました。「師走」の言葉が表すように、あわただしさが増すなか、各地で伝統的な行事も行われます。そこで本号では、年末・年始の風景に欠かせない伝統行事をご紹介します。

【年末の行事】

〔納め天神祭〕 亀戸天神社で 12 月 25 日(木)に行われ、古い御札や絵馬を燃やし、新しい御札をいただくというものです。御札を火に入れる前に、体をなでると無病息災になるといわれています。

〔納め不動〕 毎月 28 日は深川不動堂の縁日です。その最後となる 12 月 28 日(日)には、締め飾りや鏡餅も売られ、年末の雰囲気を感じられます。

〔除夜の鐘〕 区内では浄心寺(平野 2-14)、持宝院(北砂 4-22)、妙久寺(北砂 2-11)の各寺院で、除夜の鐘がつかれます。このうち浄心寺と持宝院では、一般の参拝者にもつかせてくれます。

【年始の行事】

〔七福神めぐり〕 七福神は、七つの災いを除き、かわって七つの幸福を与える神として、長い間、庶民に信仰されてきました。区内にも深川と亀戸に七福神があり、年明けには多くの方が参拝されます。詳しくは 3 面をご覧ください。

〔亀戸天神の鷲替〕 毎年 1 月 24 日・25 日に亀戸天神社で行われます。木で鳥を形どった「鷲」を毎年新しいものに替え、前年の「鷲」を納めるというもので、悪事を善事に替えるといういわれがあります。江戸時代刊行の『東都歳時記』によれば、太宰府天満宮にならって文政 3 年(1820)からはじめられたようです。

芭蕉記念館展示替 2 面

芭蕉記念館新展示

江東ゆかりの文人たち

12月18日(木)から公開

江東区芭蕉記念館(常盤1-6-3)では、12月18日(木)から新展示になります。今回は2階展示室の一部展示品を入れ替え、「江東ゆかりの文化たち」を取り上げました。

江東区は、江戸時代から江戸庶民の文化を支えてきた香り豊かな土地柄でした。芭蕉が深川に移り住み、そこに草庵を結び、生涯の創作の拠点としたように、以降多くの文人をこの地域から輩出しています。

今回の展示では、英一蝶をはじめとした11人の「ゆかり」の文人にスポットをあてています。

その11人と江東区との関わりを紹介してみよう。

親和筆「涼」一字書

英一蝶は元禄時代を代表する画家として知られますが、流刑を赦



豊国喜寿年賀配り絵

されたのちに宜雲寺に隠れ住み、その後、深川靈巖寺門前に移り住んだと伝えられます。杉山杉風は芭蕉の庇護者であり、深川にあった杉風の別荘採茶庵から芭蕉が「奥の細道」に旅立ったことで知られます。度会園女は芭蕉の門人の一人ですが、のち江戸に出て、富岡八幡宮門前で眼科医を営み、この地で亡くなりました。

そのほかに、紀伊国屋文左衛門(材木商/墓)、平賀源内(本草学者・

戯作者/エレキテル実験の地)、三井親和(書家/墓)、佐久間象山(兵学者・洋学者/砲術塾跡)、小林一茶(俳人/寓居跡)、曲亭【滝沢】馬琴(戯作者/誕生の地)、山東京伝(戯作者/誕生の地)、歌川豊国【国貞】(浮世絵師/墓)の人々です。展示では、杉風筆「俳諧四句吟」懐紙・親和筆「涼」一字書・一茶筆「落葉して」句短冊・京伝筆「青柳を」狂歌短冊などの遺墨や、源内の「志道軒伝(写本)」・馬琴の「俳諧歳時記」などの和本を紹介し、パネルをもとに、これらの史跡を図示しています。また、参考として豊国の系統の祖にあたる豊春の「七福神の図」は、これからの季節感にピッタリの作品です。

この機会に「江東ゆかりの文人たち」に出会ってみてはいかがでしょうかでしょう。



杉風筆 俳諧四句吟懐紙



豊春筆 七福神の図

芭蕉記念館

開館：午前9時30分～午後5時
休館日：月曜日(芭蕉庵史跡展望庭園は第1と第3月曜日開園)

12月28日(日)・1月4日(日)までの年末年始

*新年は1月6日(火)から

入場料：大人100円、小中学生50円
交通：都営新宿線森下駅下車
徒歩7分

問合せ：芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3
☎(3631) 1448

第二回「江東ふるさと歴史研究」

論文募集

「江東ふるさと歴史研究」は、区民自身によるさと江東区の歴史と文化の調査・研究活動、歴史的環境の保全と文化財愛護活動に関する研究活動を奨励し、地域文化の振興に寄与し、本区の将来像の「江東・伝統と未来を結ぶ下町」の実現に向けて設けられたものです。個人又はグループによる地道な調査や研究の成果を論文にまとめ、是非ご応募してください。入選論文は、「江東ふるさと歴史研究」誌に掲載し、また「論文発表会」を平成10年度江東区文化財保護強調月間の行事として開催します。

また、「江東ふるさと歴史研究」論文募集にあわせて、論文の書き方講習会を開催します。論文の構成、史料の評価方法、参考文献の引用方法など、初めて研究論文に挑戦する方々のための講習会です。お気軽にご応募してください。

《第二回応募要領》

論文要領 各時代を問わず江東区の歴史、文化に関する調査・研究、歴史的環境の保全と文化財愛護活動に関する調査・研究。ただし、未発表のものに限ります。

原稿要領 400字詰原稿用紙20〜40枚。原稿は必ずタテ書きで400字詰用紙を使用し、別紙に氏名、住所、電話番号、生年月日（グループの場合には、グループ名と代表者の氏名、住所、電話番号、生年月日、

グループの活動略歴）を明記して、右上で綴じてください。写真、図版資料等は、オリジナルなものを原則として3点程度までとし、原稿枚数に含みます。また、参考文献、引用文献の出版は明記してください。

なお、応募原稿



永代橋東詰「東京名所図会」

及び写真等の添付資料は返却いたしませんので、ご注意ください。

応募資格 問いません。

選考要領 入選論文5点以内。佳作論文若干点。

論文の選考は、「江東ふるさと歴史研究」選考委員会で行います。

締切日 平成10年5月29日（金）

論文の書き方講習会

募集要領

日時 平成10年3月25日（水）午後6時〜8時

会場 江東区教育センター第3研修室

内容 講義「論文の書き方」

講師 成城大学教授 吉原健一郎

定員 20人

申込方法 往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、「論文の書き方講習会」と明記のうえお申込みください。

締切 平成10年3月13日（金）

申込・問合先

〒135 江東区東陽4-11-28

江東区教育委員会

生涯学習課文化財係

「江東ふるさと歴史研究」担当

正月のお出かけは

七福神めぐりから

深川七福神 東西線門前仲町駅で下車し富岡八幡宮から巡るコースと、都営新宿線森下駅で下車し深川神明宮から巡る2コースがあります。距離は約4km、時間にして約2時間です。

恵比須神	富岡八幡宮（富岡1-20）
弁財天	冬木弁天堂（冬木22-31）
福祿寿	心行寺（深川2-16）
大黒天	円珠院（平野1-13）
毘沙門天	龍光院（三好2-7）
布袋尊	深川稻荷神社（清澄2-12）
寿老人	深川神明宮（森下1-3）
亀戸七福神	東武亀戸線亀戸水神駅

で下車し常光寺から巡るコースと、総武線亀戸駅で下車し龍眼寺から巡る2コースがあります。こちらも距離は約4km、時間は約2時間です。

布袋尊	龍眼寺（亀戸3-34）
福祿寿	天祖神社（亀戸3-38）
毘沙門天	普門院（亀戸3-43）
恵比須神	香取神社（亀戸3-57）
大黒天	〃（〃）
弁財天	東覚寺（亀戸4-24）
寿老人	常光寺（亀戸4-48）

おしらせ

98年新春

民俗芸能の集い

区内に伝わる
民俗芸能を公開
する「新春民俗
芸能の集い」も
今回で11回目を
迎えます。

庶民の生活の
中から生まれ、
受け継がれてきた芸能。江東区を知
るためにも、ぜひ一度ご覧になって
みてはいかがでしょうか。



日時 1月18日(日)午後1時～4時
会場 深川江戸資料館2階小劇場

(白河1-3-28)

出演団体 江東区民俗芸能保存連盟

東京木場角乗保存会

深川力持睦会

木場木遣保存会

砂村囃子睦会

富岡八幡の手古舞保存会

問合せ 生涯学習課文化財係

☎ 3647-9111

(内) 3361-2

亀戸七福神めぐり

江東区レクリエーション協会、深
川・亀戸観光協会の共催で、恒例の
初春七福神めぐりを開催します。

第27回 深川七福神めぐり

〔期日〕 1月3日(土) 午前8時30分

集合・9時出発

〔集合場所〕 富岡八幡宮

第17回 亀戸七福神めぐり

〔期日〕 1月2日(金) 午前8時30分

集合・9時出発

〔集合場所〕 亀戸天神境内

〔費用〕 両コースとも一人千円を当
日持参

〔定員〕 各100人

〔申込〕 はがきに希望コース名(深
川または亀戸)、住所、氏
名、年齢、電話番号を記入
して12月20日までに左記へ。

〔申込先〕 ☎ 136

江東区大島4-1-3-838

高橋国男 ☎ 3637 (5154)

江東史談会例会

日時 12月22日(月) 午後6時

会場 深川老人福祉センター

参加 自由、会費1000円

連絡先 細田隆善(3641)5780

芭蕉記念館から

ジュニア俳句教室

日時 平成10年1月10日(土)

午前9時30分(集合9時20分)

会場 芭蕉記念館2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人

(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

締切 平成10年1月9日(金)

申込 窓口または電話で

たくみのやかた

工匠館から

伝統の技 実演公開

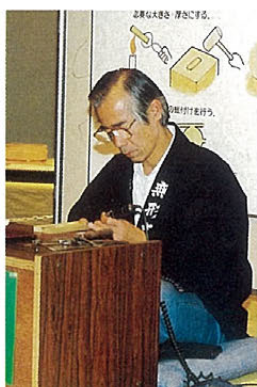
毎月第一・第三日曜日に工匠耆番

館(森下文化センター内)で行って

います職人さんの今後の実演日程は

次のとおりです。

12月21日 鍛金 佐生 明義



1月18日 漆工 大岩 仲治

*時間はいずれも午後1時～3時

旧大石家住宅から

旧大石家の正月飾り

旧大石家住宅

では、新年を迎

えるために正月

飾りをつけます。

門松や輪飾りを

戸口や門前に設

ける正月飾りが一般的で、旧大石家

でも、戸口の前に門松と輪飾りを供

えて新年を待つことにします。

農村部では、正月になる歳神が訪

れてその年の豊作をもたらすとされ

ました。家の門前に門松をたてるの

は歳神を招き入れるためです。

旧大石家もともとあった東砂8

丁目は、江戸時代には八郎右衛門新

田と呼ばれ、近代にいたるまで都市

近郊部の農村として発展してきまし

た。門松にこめられた豊作の祈りは、

新たな一年の暮らしに向けられた真

剣な思いから生まれたのです。正月

飾りの期間は次の通りです。

期日 12月20日(土)～1月11日(日)

ただし12月27日～1月5日は

閉館となります。

入場 無料

問合せ 生涯学習課文化財係

